

事業所名	でいじいおれんじ				公表日	令和7年2月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	・現時点では低学年が多く体も小さく合っていると思うが活動によっては家具を端に寄せている。 ・限られた建物のスペースの中で柵やロッカーなど良く工夫されていると思う。	・活動スペースに不要な物がないよう整理整頓を心掛けていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	・利用児童の特性、屋外での活動時には考慮している。	・適切な配置数でも支援度の高い児童が多い時は人員が不足しているように感じるが、状況に見合った活動を工夫して行っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	・日々危険のないように配置している。 ・階段の手すり、台の設置など配慮している。 ・玩具・本などわかりやすく、手の届く所に置いてあると思う。	・玩具箱は整頓されているが、文字だけの記載で分類されており、今後視覚的情報に差し替えることで児童にもわかりやすい構造化を目指す。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・片付け等努力している。 ・こまめに消毒、片付けをおこなっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	2	・クールダウンの部屋はある。 ・相談室があり、個別に児童に対応している。	・物が増えがちなので、毎日の清掃時意識して片付けるようにし、児童がいつでも使用できるよう準備しておく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	3	・日々業務日誌で伝えている。 ・始業前の打合せでその都度問題点の改善点を話し合い、また、伝えている。	・PDCAサイクルまでには到達していない ・フォーマットの見直しをし、活用していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	・業務開始時のミーティングで話し合い、検討している。	・引き続きミーティングの時間の確保に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	・業務開始時のミーティングで情報共有がなされている。 その都度話し合い、お互いに意見を出し合い改善につなげている。	・引き続きミーティングの時間の確保に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5	・保護者の意見を第三者と捉えた評価、業務改善に取り組んでいる	・現時点で第三者による外部評価は導入していないが、今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	2	・研修を受けた方から内容の報告があり共有している。	・引き続き直接参加を促すと共に、参加できない職員へは伝達研修を行っていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・モニタリング後にアセスメントを行い計画を作成している	・適宜アセスメントを行い、気付いたことは職員に共有すると共に記録として残すよう努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	・標準化されたツールの使用はしていない。 ・責任者又先輩などに聞きながらより良い支援につながるようになっている。	・個別支援計画書の書式が新しくなりフォーマルなアセスメントの記録がしやすくなっている。 ・行動観察を記したインフォーマルなアセスメントは日々記入している。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・設定されている。	・児童に関わる全ての人にわかりやすく支援内容が伝えられるよう努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	・一日の流れは話している。 ・集団活動など工夫して行っている。	・一部の職員に偏りがちではあるが、アイデアを求めると全職員で思案している。今後はどの職員からも立案できるよう努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	・行事に向けての活動の練習などを行っている。 ・季節ごとの遊びを取り入れている	・週に1、2回のみ利用の児童もいるので業務日誌を見返して同じ活動内容にならないよう配慮していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3	・送迎などで終了が違うので打合せは出来ないが、文章などで共有している。	・業務日誌への書き忘れ時は連絡ツールを活用し伝達漏れがないよう努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		・意識をしていないが活動を振り返ると全て組み込まれている	・「4つの基本活動」の内容が周知されていなかった。支援プログラムと合わせて全職員に周知をしていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		・二者択一型から自由選択型に移行できるよう努めている	・選択する機会を増やせるよう、声掛けの工夫をしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・参加した人がその後皆に内容などを伝えてくれている。	・今後もミーティング時に伝達していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・障害児支援センター（あけぼの、あしすと）とはつながっている。	・今後は療育施設や相談支援事業所とも情報を共有できるよう努めていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	・おれんじからすまいるには伝えている ・卒業している子どもがまだいない為	・現時点までにデイを卒業する年齢の児童がいない。 ・すまいるに移行した児童については移行後も情報共有を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10		・ミーティングでその内容を聞くことがある。	・関係機関連携支援を積極的に行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	1	・公園など ・足立区の催しに参加している	・児童館が徒歩圏内がない為、近隣の公園や図書館に外向き挨拶をするなど少しづつ交流を図っている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	・こども発達支援事業所ネットワークへ参加している。	・協議会の詳細が周知できていなかった。今後は主催についても説明・周知していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10			・連絡帳や送迎時等、その日の出来事を保護者に伝えている。保護者から発信があった事についてはミーティング時に全職員で共有している。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・情報提供を行っている。	・引き続き外部研修の案内を連絡帳等を通して行っていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1		・契約時に運営規定や利用者負担等については説明を行っている。 ・支援プログラムについてはモニタリング時に説明の機会を設けている
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			・半年ごとの作成前には必ずモニタリングを行っている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10			・わかりやすい文面を心掛け作成してる。 ・全ての計画書に署名等いただけている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			・学校からの伝達や連絡帳等を通して、不安感のみられた際はこちらからご連絡をするよう心掛けている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6	・個別にはしているが父母の会はない。 ・保護者会は行ってないが、参観時に複数名で行えるようにしている。	・以前は親子イベント等行っていたが、感染症対策の為休止していた。今年度から参観型というかたちで少しずつ再開している。今後保護者交流の機会を設けられるよう検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			・管理者（統括管理者含む）への迅速な報告及び記録の作成、対応に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・ブログ等の発信を行っている。	・毎月のおたより発行やブログでの活動報告を発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	6	・地域に出向いているが招待はしていない。	・スペース的な問題もあり解放行事は行ってないが今後開催を検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・マニュアルはあり、目を通している。 ・毎月職員に向けた災害時伝言ダイヤル訓練を行っている。	・マニュアルは縮小版を全家庭に配布しているが、わかりやすい周知のため要点をまとめたものを年度初めに配布する等更に工夫していく。 ・消防署協力の避難・防火訓練は年間計画で周知できるよう改善していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	・全職員、全児童が避難訓練に参加できるよう日程等調整し実施している。 ・消防署協力のもと、防災訓練を実施した。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・災害時伝言ダイヤルの活用方法や、災害時の対応を一覧にしたものを配布してる。	・年度初めに改めて周知できるよう改善していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・毎年東京都の虐待防止・身体拘束適正化の研修を事業所内で行っている。	・研修の様子をブログを通して発信していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・年1回以上の虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催している。	・拘束をしない支援が前提だが、やむを得ない状況が予想できた場合、拘束内容を記載した承諾書を作成、記入してもらうこととしている。	